

平成20年度第5回（仮称）広域リサイクルセンター基本計画策定委員会会議録

日 時 平成20年11月7日（金） 午前10時 ～ 正午
場 所 寒川町クリーンセンター 2階・会議室

出席委員 12名

・市川元久・小嶋政幸・亀山直平・井上隆男・杉山六郎・小嶋龍巳・吉田信雄
・磯川彰・吉田和正・前嶋笑子・海老根照子・関口光男

欠席委員 2名

・佐藤忠・後藤勤

町出席者

・須藤部長・関野課長・石塚主幹・関本副主幹・徳江主査

司会進行は石塚主幹

日産技術コンサルタント会社概要説明・担当者自己紹介

1. 開 会 ……市川委員長より開会

2. 報 告

(1) 第4回基本計画策定委員会の会議録について

通知と一緒に前回の会議録を送付しました。ご意見のある方は事務局までお願いいたします。

3. 議 題

(1) びん類選別方式の比較検討について

(議 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 別紙資料について説明（日産技術コンサルタント）

(議 長) 事務局より説明がありましたので、質疑を受けたいと思います。

質 疑

(委 員) 手選別作業は横須賀市で見学しているが、作業環境が良くないように思われる。自動選別機であれば、環境も良く、作業人員も減らすことが可能で費用も抑えられるのではないか。

(事務局) 作業員を減らすことができても、自動選別機は複数台設置する必要がありその分維持経費がかかります。また、自動選別機の選別精度が手選別に比べると格段に落ちるとというのが現状です。

(委 員) 10年というライフサイクルコストで考えた場合に、手選別での人件費と自動選別機を設置した場合の耐用年数との経費の比較はどうか。

(事務局) 国で決められている耐用年数は7年ですが、概ね10年くらいは使えるものと考えられます。その場合でも手選別の人件費と自動選別機の維持管理等を含めた経費を比べると、手選別の方が費用対効果が良いと思われれます。

(委 員) 手選別で行った場合の作業時間というのはどのようになるか。

(事務局) 施設での1日の作業時間は5時間を想定しています。びんの処理量としては12.5t/日で、1時間あたりでは2.5tになります。手選別でも

処理できる量となっています。手選別の場合は、作業員の班分けを行い、ローテーションで休憩を取りながら作業を行います。

(委 員) それならば手選別でも問題ないように思います。

(委 員) 作業環境面ではどのように考えているか。(横須賀の例)

(事務局) 横須賀市では地理的な問題がありますが、びん・かん・ペットボトルをすべて混合収集しています。そのため異物や臭気が出てしまうことが考えられます。一方、寒川町ではコンテナやネットで収集しているため、臭気はかなり少ない状況です。平塚市でもコンテナ収集していて、作業所内もそれほど臭気はなかったと思います。これから整備する施設なので、現状よりもより良い作業環境になるように検討していきます。

(委 員) びんの選別は手選別でいいと思うが、ごみを出す住民にも改めて中をすすいで出す等の啓発活動が必要ではないか。また、施設の計画にあたっては住民等への啓発や作業環境の対策等を行うのと合わせて、将来的に増設等も含めた柔軟な対応がとれる配置検討を行ってほしい。

(事務局) ご意見をふまえて検討を進めます。

(2) 施設機能・施設計画及び管理運営計画について

(議 長) 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 別紙資料について説明(日産技術コンサルタント)

(議 長) 事務局より説明がありましたので、質疑を受けたいと思います。

(委 員) 啓発施設の内容は、立地条件や住民の利用頻度を勘案しながら、有効活用できるように内容を検討する必要がある。施設によっては、分散して配置することも考えるべきではないか。

(委 員) 現時点を見ればその考え方もわかるが、施設については将来的な面も見据えて考えてみるべきではないか。藤沢市の湘南台から伸びてくる(仮称)湘南台寒川線やコミュニティーバスの活用を視野に入れて、人が集まりやすいまた効果がある施設を検討するべきだと思う。

(事務局) 今回提示した資料は先進施設の事例として出したもので、この内容を行うというものではないです。可燃粗大ごみが入ってこなくなるので、家具等の再生工房は想定していません。展示ホールはリサイクル学習等の多目的な利用もできるので考えたいと思っています。会議室は小学生や自治会の施設見学等でも使うので、研修室機能も含めて必ず設置したいと考えています。

(委員長) これから寒川町は、(仮称)湘南台寒川線と併せてさがみ縦貫道路の開通や新幹線新駅が設置されるなど、倉見や小動といった寒川町の北部地域が発展していくことが考えられる。そのこともふまえて計画を作っていくほしい。

(委 員) 先進施設の例として、やって良かったものや効果があった事例と施設が実際にどのくらいの稼働率なのか等の資料を出してもらえないか。

(事務局) 横須賀市の資料は手元にあるので、次回の委員会へ資料として出します。その他の施設については調べて出すことにします。

(委員) 家具の再生工房は設置しないとの説明があったが、自転車の再生工房等はどうなのか。環境問題もあり、自転車の活用は有意義ではないか。所有権等の問題は自転車条例をつくれれば対応が出来ると思うが。

(委員) さらにシルバーが行っていた剪定枝のチップ化についても検討して、基本計画の策定に合わせて方向性を示してもらいたい。

(事務局) 自転車は盗難車等の問題があり、難しいのではないかと以前お答えしたが、もう一度検討させてほしい。剪定枝のチップ化については二市一町の広域化実施計画でも検討事項となっているので、広域で連携して検討したい。ただし、リサイクルセンター内でできるかは敷地等の問題があるので、再度検討したい。

(委員) 剪定枝のチップ化については、リサイクルセンターの中に入れろという意味ではなく、せっきく資源化しているのだから前面に出してアピールするべきと考えたからである。

(3) その他について

(委員) 二点ほど伺いたい。一点目は茅ヶ崎市との協議状況についてできる範囲で教えてほしい。二点目は来年度クリーンセンターが解体されるとクリーンセンター運営審議会も解散になり、この基本計画策定委員会も今年度いっぱい終了となると、今後、事業内容の説明や情報提供はどのように考えているか聞きたい。

(事務局) まず二点目のクリーンセンター運営審議会については、解体工事の状況報告等もあるので、来年度に二回ほど開催する予定でいます。基本計画策定委員会についても、事業の進捗状況等の報告や内容の検討の関連があるので、名称を変更して体制を残したいと考えています。事務局で検討し、最終的なところでは、来年度の体制等についても報告します。

茅ヶ崎市との協議状況では、広域化実施計画の中で収集方法の統一化を図るとの課題に沿って、収集方法を変更した際の地理的な用件や経費的な面も含めて検討しています。一例を挙げると、現在は袋での収集を行っているが、コンテナ等での収集を行った場合の地域住民の協力体制やそのあり方はどうするか。非常に狭い道路も多く、それらを勘案しての置場の設置などがあります。茅ヶ崎市には廃棄物減量推進審議会という組織があり、その中で検討を進めているところです。

また、解体後の可燃ごみ等の直接搬入も含めた事務委託等についても、並行して協議を進めています。

次回の会議日程は11月26日(水)に予定したいと思います。ただし、再度ご都合を伺う場合もあるので了承していただきたい。

4. 閉会

(副委員長) 閉会の言葉を述べて閉会となる。